



やさしく
かしこく
たくましく

学校教育目標：心豊かで自ら学びたくましく生きる子どもの育成

学校は子どもが学んで、伸びて、輝く☆ところ 日々、がんばっています。計算・漢字や読書!

校内基礎学力テストを行いました。



昔から「読み、書き、そろばん」と言われてきたように「読み・書き・計算」は学校において学ぶことの土台となる最も基本的な知的技能です。この基本的技能を確実に習得することにより、それを用いて、更に様々なことを学び、自分なりに考えて課題を解決したり、他者に対して自分の考えや調べた事などを表現したり、話し合いを行って様々な意見を交わす中で結論を導き出したり、人と人との関わり方を学んだりしていきます。

本校では、朝活動の時間に、国語と算数の「学力向上タイム」を設定し、国語では漢字練習や俳句作り、長文読解や聞き取りの学習を、算数では基礎・基本の計算問題や活用問題に取り組み、読み・書き・計算の基礎的な土台づくりに取り組んでいます。計算や漢字については、各学期末に『校内基礎学力テスト』を実施し、定着度を確認すると共に、教師の指導に生かすだけでなく、子ども自身が自分の学習について、その成果や結果を知る事で、次への新たな意欲を持つことができるようにしています。先週、8日(金)には、1学期末の「校内基礎学力テスト(国・算)」を実施し、どの子も今現在の実力を試そうと真剣に取り組みました。

4月に行われた5年生対象の長崎県学力テストの結果が届きましたが、嬉しいことに国語・算数共に、長崎県と平戸市の平均点を上回る結果が出ています。(平戸市全体の平均も長崎県平均を上回っています。)これもこれまでの小さな努力の積み重ねの結果だと思えます。

『継続は力なり』・『努力はうそをつかない』と言います。今後も一步一步、コツコツと努力を積み重ね、自分の力をどんどん伸ばしてほしいと思います。間もなく夏休みに入りますが、宿題だけでなく、自分で目標を定め、毎日継続して学習に取り組んでほしいものです。ご家庭でも声をかけ、確認し、励ましてくださいね。



各学年、読書も楽しんでいきます。



本校では、読書活動の充実のための取組を推進しており、先日この学校便りでもお知らせしましたように、毎月、ご家庭において家族で取組んで頂く「家族ふれあい読書」もとても良い取組状況が見られます。

学校でも子ども達自身の読書を進めており、1・2・3の学期ごとに、一人あたりの目標冊数と学級全体の目標冊数を設定しています。(設定目標数は下記表をご覧ください。学年が上がるほど、本の内容やページ数が増え、一冊読むのに時間もかかりますので、冊数としては少なくなっています。)

学年	一人当たり 目標冊数	学級全体 目標冊数
1	70	770
2	98	1375
3	50	300
4	50	600
5	40	440
6	40	240

現在のところ、一番多く借りて読んでいる子どもは、下記のとおり。

1年生 121冊 2年生 89冊 3年生 125冊
4年生 137冊 5年生 93冊 6年生 89冊

1学期の学年の目標冊数を、すでに5つの学年が達成しています。

冊数を競うわけではありませんが、本を読むことや読み語りを聞くことは、子どもの心を耕し豊かにすることだと言えます。子ども達が素敵な本と出会い、心を揺さぶられたり、感動したりする時と場を数多くつくってあげたいと思っています。

全国学校図書館協議会の少し前の読書調査の結果として、読書と物事に対する子どもの意欲の関係では、「読書数が多い子どもは、文章を書いたり、図鑑や辞書で調べたりするのが好きで、わからないことがあったら調べたい」という答えが多かったそうです。また、読んだ冊数が多くなるほど、作文や感想文、日記など文章を書くことが好きと答える割合も多い結果だったそうです。

本の世界に浸り、楽しみながら、色々な力が身に付き、意欲が高まるなんて良いことづくめですよ。